

いたちかわらばん

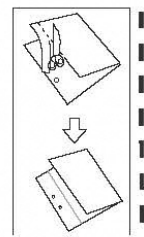
通刊 92 号 颯川・狹川 / 川原番・瓦版 '23 秋号



【版画 宗森英夫 通刊 39 号の版画を再掲】 (荒井沢市民の森 極楽広場)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



荒井沢市民の森

荒井沢市民の森は平成十年五月(一九九八年)に開園して今年で二十五周年になりました。

横浜市南部の栄区には珍しい地層があり、隆起した丘陵地の山や谷戸があり地学的にみると極めて活動的な地形です。

日本列島は世界で十の二のプレートがあるうちの四枚のプレート(太平洋プレート、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレート)が重なる複雑な場所にあります。

荒井沢市民の森周辺の地域は、約二百万年前には海底にあり、その後隆起し現在のような地形ができたようです。この辺りの地層断層にはシロウリガイ等が見られ、また、崖面から湧き水を確認でき、ホタルや動植物の生育を促しています。

コロナ発生前は公田小学校、桂台小学校の五年生達と一緒に田植え、稲刈りを行っていましたが、現在は休止しています。

愛護会の活動拠点となっている極楽広場(ごくらくひろば)から田んぼを左手に見て木道を通り森に入れば古き長き里山の風情が感じられます。山中では神奈川県花であるヤマユリの群生がみられます。皆城山の見晴台に登れば北方にランドマークタワー、西方には富士山が見られ、山頂での眺望が期待できます。

愛護会の活動作業日は土曜日が定例日です。高齢化していますが、一人ひとりが自分の体力に合わせて作業(活動)しています。

現在常時会員募集中です。(草本勝次)

授業で生徒にいたち川について話す機会を得て、生徒からたくさんのお便りがありました。一部抜粋して紹介いたします。

◎子供たちが学習してわかったこと、気づいたこと、思ったこと、もっと知りたいことなど

- いたち川は前はすごく汚かったことがわかった、ボウフラを鯉に食べさせてきれいになったことが分かった。
- いたち川にいる鯉は西本郷の生徒が放流し増やした事がわかった
- 昔はいたち川がゴミ箱になっていたということが分かった、ゴミの他にも石鹸水や油が流れていることがわかりました。あとは洪水にならないように人々が協力していたこともわかりました。
- 洪水を無くすため川幅が広がったけど、川の深さが浅く水が汚れていて魚が住めなかった。そこから水が綺麗になる対策をしたことが分かった。
- 人間が捨てた残飯などをプランクトンが食べて、食べすぎると死んで死骸が集まって、そこから生まれるのが、「ヘドロ」。それを無くす対策として魚を放流して、子どもが遊べる川になった。
- エビの名前はヌマエビで、エビを取るコツ、「エビを取るときはエビはだいたいコケのついている石の下にいるから川の流れている方向に網をおいて取るのがコツ」。
- 前までは(総合の学習を始める前)いたち川で何かしているということはわかってはいたけど、ゴミ拾い、生き物たちのすみやすい川にしていること、(水の流れが場所によって違う。石や木で水の流れを変えていた。おそかったり、はやかったりコンクリートで熱くならないように土をコンクリートと水の間に入れた。)声かけ(看板)などのたくさんのことをしているというのは初めて知っていたち川でしていることがいっきに分かった。

◎先生より

子どもたちも、考えを深めたり、広げたりすることができたようです。話の中で、「ゴミ拾い活動、その姿が、ごみを捨てないことに繋がる」という話は、一番心に残りました。いたち川には歴史があり、これから生きる子どもたちのために、「このようないたち川と関わる活動は」必要なことだと感じました。

横浜市立西本郷小学校 教諭 脇部 朗

懐かしい昔の川の思い出!

いたちかわらばん 91 号を読んで、掲載している内容が盛り沢山に興味をわきました。鎌倉時代の歴史の名残があるいたち川、川沿いにも残る史跡が発見出来ると面白そうですね、栄区の歴史についてもっと知りたいです。歩んできた過去をふり返って、進化していく人間の知恵と共に環境も変化してきているように思います。この先の世の中の変化と自然の営みの関係を考えて不安が広がります。「～ふるさとの川の思い出～『どじょっこ、ふなっこ』ざっこ採り」の川遊びの時代が懐かしく思われるこの頃です。

茅ヶ崎の読者

いたち川は栄区の魅力!

いたちかわらばん 91 号ありがとうございます。子どもたちと読ませていただきました！今年度の総合学習では栄区の魅力が伝わる特産品を作ろうというテーマで活動しています。8月に横浜市庁舎の食堂で提供されている横浜市18区井の栄区版を子どもたちと考えています。子どもたちからは緑の多さといたち川が栄区の魅力だと出てきています。去年の関わりが効いているなあと感じているところです。ありがとうございました。よければ今後ともよろしくお願いします。

横浜市立上郷小学校 教諭 里井 海椰

☆初春のウォーキング募集☆ “いたち川水源”の探索

夏場には草木が生い茂り散策が出来ない、いたち川本川の源流部を確認してみましょう。その途中の「いたち川の仙人」と言われた(故守田守氏)住宅跡地を左に見ながら源流部の水が流れ出る^{すいどう}隧道を探索しながら、珍しい植物等を観察したいと思っています。

日 時：令和6年2月20日(火)

集合場所：天神橋バス停

集合時間：10:00(13:00解散予定)

天神橋(バス停)→上郷(バス停)→源示橋→弁慶橋(第一、第二)→源流部隧道→崖より滴る湧き水を確認→上郷森の家(休憩)→上郷(バス停)解散

*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。 ※内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552)まで

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、雨具、昼食(自由)

参加人数：20名(先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和6年1月31日(水)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19 (電話)894-8161 (FAX)894-9127 (アドレス)sa-kikaku@city.yokohama.jp 栄区役所区政推進課企画調整係

発行: 狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

発行年月 2023年10月

OTASUKE 隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19 TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

通刊 92 号 編集協力: 栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

「いたち川の水源」 第6弾!!

いたち川の左支川の水源として天神橋下流で合流する洗井沢川の水源となっている栄区の南部にある「荒井沢市民の森」を紹介いたします。市民による維持管理の団体は、洗井沢川の下流部「荒井沢水辺愛護会」と上流部「上荒井沢水辺愛護会」、森林部は「荒井沢市民の森愛護会」により散策路や稲作りの指導などを行っています。

荒井沢市民の森

1998年に開園し、約100ヘクタールの広さがあります。森内には、スギやヒノキなどの樹木が茂り、野鳥や昆虫などの生き物もたくさん生息しています。

森内には散策路や水辺の広場などがあり、自然の中での散策やレクリエーションを楽しむことができます。荒井沢市民の森は、横浜市の中心部からJR本郷台駅まで約30分とアクセスが良く、気軽に自然に触れ合えるスポットとして人気があります。

荒井沢市民の森は、横浜市の貴重な自然遺産です。荒井沢市民の森へのアクセスは、電車：JR本郷台駅から徒歩約40分、バス：湘南ハイツバス停から徒歩約20分、桂台中央バス停から徒歩約15分。



OTASUKE 隊に入って25年、町も川も変わってしまったけど、なるべく自然を残して皆に親しんでもらういたち川であってほしいと思います。
(草本 和子)

荒井沢市民の森の歩み

1997年11月24日に荒井沢市民の森愛護会準備会を結成し活動を開始しました。一般会員の募集を行い約120名により愛護会が結成されました。起点となる広場の整備や古木等を利用しての椅子の製作、設置を行い、極楽広場と命名しました。

1998年5月24日に荒井沢市民の森開園式を行い多くの市民が参加されました。

1999年7月には洗井沢川の上流部の水路の整備が行われ、洗井沢小川アメニティが完成し上荒井沢水辺愛護会も結成されました。

1999年に水田の地権者の協力により、近郊の小学校児童により総合学習の一環として田植え体験授業が始まりました。

2000年に、極楽広場に子どもたちの足洗い場が完成しました。

2004年には周辺のゴルフ場や老人ホームや墓地公園の建物によって通称「横浜のグランドキャニオン」として親しまれてきた崖が見えなくなりました。それ以後、極楽広場横の倉庫跡や炭焼き広場横保安林などが市民の森に付け加えられました。

2008年、2018年には10周年、20周年記念式典を開催しています。

荒井沢池（通称谷戸田の池）

市民の森の奥には、上中下の3池があり谷戸田から公田地区の田んぼの水源地となっていました。大正期の記録には長さ70間、幅15間3尺6寸、深さ8尺とあり、堰で水を調整していた1975年頃から稲作が減って池は湿地帯となっています。地元の人によると昔はこの池はよく泳ぎ遊び場となっており、溢れた水はトンネルから零れ落ちる構造となっています。（現在でもその面影を確認することができます。）

中池の面影はありませんが、その周辺には二輪草が繁茂しています。上池跡は堤防があり湿地帯となっています。

いたち川の思い出

私がこの地に住むようになって48年になります。当時の栄区（当時は戸塚区）は、天神橋周辺が商店街の中心として賑わっていました。天神橋は道路幅、川幅も現在の半分にも満たない小さな橋でした。

その橋の袂には、天神橋商店街があり、昔ながらの多くの商店が立ち並び、買い物客で賑わい、駄菓子屋には子どもたちが集まって人々の行き交いが活発でした。

お風呂屋さんもあり、買い物物のたびにいたち川を覗くのですが、当時のいたち川はゴミなどが浮遊し悪臭を放っているどぶ川で、名前がある川であることも知りませんでした。

川の中には、缶、瓶や袋のほか自転車や洗濯機等小さな家電まで捨てられており、ゴミを捨てる排水路のようでした。

一九八〇年頃になると全国で河川をきれいにする運動が高まり、「いたち川クリーン作戦」が行われました。私はその当時、体育指導員をしていましたので、その人たちが中心となって清掃活動を行うことになりました。男の人達が川の中に入って、大型のゴミ（自転車や家電、家具等）をロープで吊るし、川の上ではそれ以外の人によって引つ張り上げるのですけど、その時は皆大真面目で「ああでもない」「こうでもない」と一生懸命でした。冷蔵庫や洗濯機を上げるのはとても大変だったと思います。投げ込まれていた物を取り除いてもすぐには川の水はきれいになりませんでした。その後何回も自転車の投げ捨てた物を撤去したことを思い出しました。私は天神橋から城山橋までの間の草むらの清掃をやったように思います。

その頃、付近の医院がコイを離したとか、川の工事等で黄リンが出てきたとか、その対応などを新聞で読んだか、噂で聞いたような気がします。いたち川がきれいになってくると、ゴミなどを捨てる人が少なくなってきた様に思います。天神橋付近の川幅も、道路も広くなり、いつの間にかいたち川沿いは散歩しやすい、親しむ川になっていました。

NHK 朝ドラ「らんまん」の植物（その1）

私が植物に興味を持ったのは、10歳くらいの時でした。疎開した場所は農村地帯で、農家、非農家と差別された時代です。我が家は非農家で、野菜を買う商店もない中で、周辺の水田地帯、林、小川沿いの食べられる植物を覚えしました。特に私は末っ子でしたから家庭を助けるには野菜の調達くらいだったため、植物に興味を持ったのです。

その頃見た雑誌でNHKの朝ドラ「らんまん」の主人公牧野富太郎博士の生い立ちを知りました。小学校しか出ていないのに東大の教授になったこと、道端を100m歩くのに周辺の野草の全てを説明しながら1時間以上かかることが書かれていました。この記事に大変感銘して貧困でありながら教授になったと思ひ込んでいたのですが、ドラマを見て自分勝手に思ひ込んでいたことに気がきました。

ドラマに出てくる植物に興味をもち、いたち川沿いの植物と重ね合わせ見ていると、最初に出てきたバイカオウレン（梅花黄連）は東北地方南部から四国に分布して早春の2月～3月に開花する野草ですが、栄区でも絶滅危惧種のスハマソウ（州浜草）が2月頃開花してよく似ている花で花弁の数が異なるようです、日本海側ではミスミソウと言って葉の形が少し違っています。

キンセイラン（金精蘭）は博士が37歳の時学名を発表したラン科エビネ属の多年草で、日本固有種で外国には生息していません。分布は日本全国で、栄区にも数種のエビネが確認されていますが、盗掘によって現在は確認することは困難です。

ジョウロウホトトギス（上臈杜鵑草）は四国から九州に分布して、博士23歳の時に命名した植物で、黄色の花で、近種にはトサジョウロウホトトギス、キョウジョウロウホトトギス、サガミジョウロウホトトギス、スルガジョウロウホトトギスなどの変種があります。上臈とは大奥で高い役職にいた女性のことで気品の高い意味があります。栄区内の林に秋に行けば容易にヤマホトトギスを見ることが出来ます。

ネコノメソウ（猫目草）はユキノシタ科で、果実ができると2つに裂けて種が猫の瞳孔に見えることから名前が付いたようです。谷間など湿地に生える多年草で、早春に見ることができます。栄区では荒井沢で多く確認できますが、それはヨゴレネコノメソウです。

マルバマンネングサ（丸葉万年草）はベンケイソウ科マンネングサ属の常緑多年草で、日本全国の岩場や石垣などに自生しています。博士が最初に認められた植物で、学名にマキノイとつけられています。いたち川沿いには外来種のメキシコマンネングサが繁茂して、日東橋付近に8月頃に小さな黄色の花が群生しています。

栄区には多くの貴重種がありますが、大事に見守って次世代に引き継いでいきましょう。ドラマで紹介される植物について、引き続きいたち川との関連を説明していきたいと思っています。（水・人・子）